

1. 教育の責任

- ①戯曲や小説、漫画など様々な媒体で創作された人物を、その場で実際に生きているように立ち上げていくこと。
- ②人生にとって今でしか味わうことのできない「楽しさ」を、一人ひとりに対してフォローアップすること。

2. 教育の理念

今一番熱中できることに没頭すれば、必ず将来の「点に」繋がり、線となるはずだと信じています。

3. 教育の方法

演劇という総合舞台芸術をひとつのきっかけとして、人生の豊かさを体感させます。

映画は何度でも見返すことができ、それぞれが一本の作品として未来永劫残りますが、演劇はたとえ映像を残したとしても、それは単なる記録でしかありません。俳優の演技も然り。映画の場合は NG テイクとして録り直しができる事に対し、演劇はそうはいきません。リアルに、その場で地面に足をつけている感覚を味わえるのは演劇ならではのと思っています。

もうひとつ、プレゼンテーションも研究しています。プレゼンテーションのゴールは「相手を動かす」ことですから、どういう手を施せば視聴者に良い影響を与えることができるのか、ビジュアル（視覚）・ポータル（聴覚）・バーバル（言語）の3つを足掛かりとして指導をしていきます。

4. 教育の成果

「この授業を履修してよかった」「演劇ゼミに入ってよかった」という声はこちらに届いてくるのが成果の一つと言えると思います。

5. 改善への努力と今後の目標

『6 : 2 : 2 の法則』というものがあります。発信することに賛同してくれる人が2割、気に入らない人が2割、どちらでもなく折々の情緒によって聞き入れてくれる人が6割という考え方です。まずは2割の味方をつけること、そして浮遊している6割を少しでも味方に近づけることが目標です。

【添付資料】